

| | | | | |
|---------|-----------------------------|----------|------|--|
| 氏名 | 香田 泰子 | | | |
| 学位の種類 | 博士（ヒューマン・ケア科学） | | | |
| 学位記番号 | 博甲第 9578 号 | | | |
| 学位授与年月 | 令和 2 年 3 月 25 日 | | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第 1 項該当 | | | |
| 審査研究科 | 人間総合科学研究科 | | | |
| 学位論文題目 | 視覚障がい者のスポーツ活動とメンタルヘルスに関する研究 | | | |
| 主査 | 筑波大学教授 | 保健学博士 | 武田 文 | |
| 副査 | 筑波大学准教授 | 博士（学術） | 水野智美 | |
| 副査 | 筑波大学助教 | 博士（体育科学） | 門間貴史 | |
| 副査 | 筑波大学准教授 | 博士（教育学） | 澤江幸則 | |

論文の内容の要旨

香田泰子氏の博士学位論文は、視覚障がい学生および視覚障がいアスリートを対象として、メンタルヘルスの状況およびスポーツ活動や心理社会的要因とメンタルヘルスとの関連を検討したものである。その要旨は以下のとおりである。

第 1 章において、著者は本論文の研究背景として、視覚障がい者のスポーツ活動の現状に関する先行研究や、視覚障がい者のメンタルヘルス、およびスポーツ活動とメンタルヘルスの関係に関する先行研究を概観している。そして、視覚障がい者のスポーツ活動の現状や課題についての研究が僅少であり、視覚障がい者の社会属性や障がい状況等とスポーツ活動状況との関連が明らかにされていないこと、また視覚障がい者のメンタルヘルスは晴眼者よりも不良であるという知見が多いものの、統一した見解は得られていないこと、さらに、視覚障がい者のスポーツ活動と心理社会的要因やメンタルヘルスとの関係に関する研究は、国内外を通じてほぼ皆無であることを述べている。

第 2 章では、第 1 章の検討を踏まえて研究課題を整理し、本研究の目的を（1）視覚障がい者のスポーツ活動の規定要因を明らかにすること、（2）視覚障がい者のメンタルヘルスの状況を明らかにすること、（3）視覚障がい者のスポーツ活動および心理社会的要因とメンタルヘルスとの関連を明らかにすること、としている。

第 3 章では、上述の研究目的に沿って、研究 1 として、視覚障がい学生を対象に、スポーツ活動とメンタルヘルスに関する質問紙調査を実施している。研究 1-1 では、中学・高校・大学でのスポーツ活動状況およびその規定要因を明らかにすることを目的に分析を行い、高校での体育授業の参加率は視覚特別支援学校が通常校よりも高かったこと、中学・高校での運動部活動実施率は、性別でみると男子が女子より高く、学校種でみると高校において通常校よりも視覚特別支援学校で高かったこと、中学・高校で運動部活動を実施した者は大学でも実施する傾向にあったことを明らかにしている。研究 1-2 では、メンタルヘルスの状況、および中学・高校・大学でのスポーツ活動や心理社会的要因とメンタルヘルス

との関連を明らかにすることを目的に分析を行い、視覚障がい学生のメンタルヘルスは一般の大学生や同年代の晴眼者よりも不良な傾向にあり、盲学生が弱視学生よりも不良であること、中学・高校で運動部活動を実施した者のほうがそうでない者よりもメンタルヘルスが良好であり、その効果は盲学生のほうが高いこと、中学・高校での運動部活動はソーシャルスキルの向上を介してメンタルヘルスの保持増進効果をもつ可能性があることを明らかにしている。

第4章では、研究2として、視覚障がいアスリートを対象に、競技活動とメンタルヘルスに関する質問紙調査を実施している。研究2-1では、競技活動を規定する要因を明らかにすることを目的に分析を行い、性別と競技種目に関連がみられたこと、年齢が高い者は競技年数が長く、1週間の総活動時間が短かったことを明らかにしている。研究2-2では、メンタルヘルスの状況および競技活動や心理社会的要因との関連を明らかにすることを目的に分析を行い、視覚障がいアスリートのメンタルヘルスは晴眼の大学生アスリートや一般国民と同レベルにあり、特に男性アスリートで良好であること、メンタルヘルス不良に関係する要因は、「女性」であること、競技ストレスの「周囲からの評価」ストレスが高いこと、「家族からのソーシャルサポート」が低いことを明らかにしている。

第5章で、筆者は研究結果をふまえて総合考察を行い、視覚障がい者のメンタルヘルス保持増進対策について論考しており、研究1の成果から、視覚障がい生徒の学校体育授業を担保する教育環境の整備、盲の生徒や女子生徒の運動部活動参加を促進するための具体策を提言し、研究2の成果から、女性アスリートへの支援、周囲からの評価ストレスの低減や家族からのソーシャルサポート向上の支援策を提言している。最後に、本研究の限界と課題ならびに本研究の意義について言及している。

審査の結果の要旨

(批評)

本論文は、視覚障がい者のスポーツ活動とメンタルヘルスの関係を実証検討した初めての研究である。視覚障がい学生および視覚障がいアスリートを対象とした調査結果から、スポーツ活動は良好なメンタルヘルスに関係することを明らかにしており、新規性、独創性ともに極めて高い。今後、視覚障がい者のスポーツ活動支援策を検討する上で貴重な研究知見を創出しており、障がい者スポーツ研究のさらなる発展に貢献するものであり、社会的意義が大きい。

令和2年1月17日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士(ヒューマン・ケア科学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。